

国語 第2学年 組み立てを考えて、お話を書こう 検討会の想定問答

指摘 1：ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し：中心はB(1)イの、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序に沿って構成を考えること。本時はその中心の時間で、出来事カードを「はじめ・中・おわり」に並べて組み立てメモを作る。書く段階では〔知識及び技能〕(1)カの主語と述語の関係を合わせて指導する。

指摘 2：評価規準は何か。どこで見るのか。

返し：3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第8時の読み返しカードと清書、思考・判断・表現①は本時の組み立てメモと第7時の下書き、態度①は第1時と第9・10時で見る。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：B(2)ウの、物語を作るなどして感じたことや想像したことを書く活動。絵から想像したお話を書き、読み合っておもしろいところを伝え合う。

指摘 4：個に応じた指導はどうするのか。

返し：出来事が思い付かない子には、「だれが出てくるかな」「何にこまるかな」と一つずつ聞いて、話した言葉が先生がカードに書き取る。書くのが苦手な子には、カードの文をそのまま原稿用紙に写してつなげる書き方を認める。早く終わる子には、「おわり」の気持ちを書き足させる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 5：ICTは使わないのか。

返し：出来事カードを端末の付箋にして並べかえることと、組み立てメモを大きな画面で全体に見せることを想定している。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。2年生は手でカードを動かす方が分かりやすい子も多いので、紙のカードを基本にしてもよい。

指摘 6：教科書の組み立ての例どおりでいいのではないか。

返し：教科書の例は、第4時に「はじめ・中・おわり」のやくわりを確かめる資料として使う。本時は、教科書とは別の先生のお話で並べ方を練習し、そのあと自分のお話に移る。例をまねするだけにならないようにするためである。指導事項から組んであるので、どの会社の教科書でも置き換えられる。

指摘 7：10時間は多い。時間が足りない。

返し：10時間は光村図書の年間指導計画例の配当に合わせた。第2時と第3時は一時間にまとめられる。第3の1(5)は書くことの指導で「実際に文章を書く活動をなるべく多くすること」としているので、書く時間（第6～8時）は削らない。低学年では第3の1(7)のとおり、生活科などで見たことや経験したことを、お話の出来事の材料にしてもよい。

指摘 8：発問が多すぎないか。

返し：本時の中心発問は「『中』で起こったことは、どの順番だとよく分かるか」の一つ。先生のカードを並べる問いは、その練習のための問い。全体には中心発問とめあてだけを板書する。

指摘 9：板書はどう使うのか。

返し：「はじめ・中・おわり」の三つの枠を、組み立てメモと同じ形と色にして、子どもが自分のメモと見比べられるようにする。並べかえた所に矢印をかき、順序を変えたとお話がつながることを目に見える形にする。B(1)イの「事柄の順序に沿って」を形にしたもの。

指摘 10：振り返りは何を書かせるのか。

返し：「ならべかえたり、たしたりしたところ」と「つぎの時間に書きたいこと」の二つ。一つ目で、組み立てを粘り強く考えたかを見て、態度①の評価に生かす。

指摘 11：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第1学年及び第2学年〕2内容B書くこと(1)ア・イ・ウ・エ・オと(2)ウ、〔知識及び技能〕(1)カ、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

